

ホームだより いなだいら

特別養護老人ホーム伊奈平苑
伊奈平苑高齢者在宅サービスセンター
伊奈平苑ケアプランセンター
伊奈平苑ホームヘルプステーション
武蔵村山市西部地域包括支援センター



住所 東京都武蔵村山市伊奈平6丁目14番の2
電話 042-560-3916
URL <http://www.inadairaen.com>
mail info@inadairaen.com
編集・発行 社会福祉法人村山福祉会 編集係



デイサービス 榎本 ちよ子 様の書道作品「花」

○ご利用者思い出話…P2～3

○伊奈平写真館…P4

○お知らせ・編集後記…P4

【経営理念】

■一人ひとりの生き方を大切にし、地域で安心して暮らせる時間と空間をつくります。

【経営方針】

■私たちは、ご利用者の人権を守ります。

■私たちは、ご利用者が安心して生活できるよう、心の通うサービスを目指します。

■私たちは、サービス向上を図り、開かれた経営を行います。

■私たちは、地域に根ざした運営に努めます。

デイサービスのご利用者に、懐かしい思い出を語っていただきました。

ご利用者思い出話

福島から東京へ、思い出話

デイサービス 梅田 トミ様

私は昭和八年に福島県の北部、宮城県との県境に近い伊達市の桑折町で生まれました。桃をはじめとする果物の名産地です。

町の北部には半田山があり小さな頃からよく登りました。が、うるしが沢山生えていて肌の弱い私はすぐにかぶれ、近くの飯坂温泉の薬湯に浸かって治したものです。

生家は大きな農家の分家で、父は畑仕事、母は縫い物などをして生計を立てていました。私は十人兄弟の下から二番目。学校には通っていましたが、勉強の思い出よりも野山で遊んだ思い出ばかり憶えています。近くのリングゴ園で隠れてリングゴをもいで食べたりしていましたが、園主は叱つたりせずに「もっと持っていきな」といくつもリングゴを持たせてくれました。夏は諏訪神社のお祭りがあり、その時だけはお小遣いをもらって境内に並ぶ屋台で遊び、冬には下駄に割った竹を取り付けた下駄スキー、カチカチに凍っ



た地面で下駄スケートもしました。

十四歳で学校を出ると、多くの同級生と一緒に町にある郡是の製糸工場に就職しました。工場には家政を教える女性学校があり、勉強と仕事両方をしながら寮で生活しました。

十九歳の頃父が亡くなり、その頃には上の姉達は皆東京に出ていて、私もすぐに上京渋谷区で飲み屋を開いていた姉と一緒に住み、店を手伝いました。その後夫と知り合い結婚、夫の仕事の関係で永福から花小金井、今の残堀へと移り住みました。

九十歳になり、ゆっくりのんびり。残堀の老人会「寿会」に入り、盆踊り大会などで伊奈平苑に来ていたことがきっかけで、伊奈平苑のデイサービスに通い始めました。とても楽しい所である日が待ち遠しいです。足の痛いのも忘れて居眠りするほどです。

村山の変遷と私の思い出

デイサービス 糟谷 修平様

私は武蔵村山市大字三ツ木、現在の三ツ藤に生まれました。四人兄弟の一番上で、下には弟二人と妹がいます。

子供の頃家の周りは麦や芋が育つ畑があり、兄弟や友達と凧あげ、コマ回し、竹馬などあたりで取れる材料を工夫して遊び道具を手作りして遊びました。家業は水あめ工場でしたが工場の手伝いをしたことは無く、井戸から水を汲んで薪でお風呂を沸かしたり、家の手伝いを良くしました。

家から子供の足で歩いて十分ほどの山際にあった村山小学校第二分校に四年生まで通い、五年生からは市役所の隣にある本校へ。中学も本校の近くの村山中学校です。中学を卒業すると小平市にある日立製作所に就職し、バスと電車で通いました。二十

六歳の頃、自宅のすぐ前に青梅街道が開通し、その二年後に職場結婚しました。子供は四人授かり、五十歳代で

一度関連会社に転職して、昨年令和四年の六月に腰骨を骨折するまで勤めあげました。町内会やスポーツ愛好会、お祭りなど地元の行事や集まりが好きで、生まれた時からずっと暮らす地元への愛はと

ても強いです。家からすぐの場所に多摩都市モノレールの駅ができる予定で、区画整理のため家を建て替えることになりましたが、少土地が狭くなっても絶対にここに住み続けたいと思っています。家族はとても大切で、日々感謝しています。また、伊奈平苑のデイサービスに通うことも元気の源です。これから元気に過ごして、是非完成したモノレールと駅を自宅の窓からこの目で見たい！と強く願っています。



多摩都市モノレール

私の思い出話

デイサービス 榎本 ちよ子様

私は練馬区大泉で生まれ育ちました。六人兄弟の四番目で、弟が一人いる以外は全て女です。練馬といえは大根ですが、家の周りも大根畑が広がっていました。

父は若い頃唐臼という農業の道具を作る仕事をしていて、その後農業を始めました。

幼い頃、既に上の姉達は奉公に出ていて、私と弟、妹は農業の手伝いをしました。大根は十一月の寒い時期に収穫するのでそれを冷たい水で洗ったりごぼうを抜くために土を深く掘ったりするのが辛かったのを覚えています。

高等小学校を出てから和裁や編み物などを習い、縫い物の仕事をしました。今でも編み物は好きで、趣味にしています。

二十三歳で結婚し杉並区の久我山に嫁入りました。夫の仕事を手伝うため車とバイクの免許を取って、その後武蔵村山に住む親せきの世話をするため家族で引っ越し、そこで当時鶏を飼う家が多かったので、飼料を売る仕事をしました。



榎本様の書「笑」

鶏の飼料は一斗缶に入っているのですが、ある日一斗缶の上の袋をどかすと大きな青大将がいてびっくり。動けずにしばらくならみ合いをして「お願いだからどっか行って」と心の中でお願ひしたら、聞き届けてくれたのかいなくなってくれました。私の長い趣味になっていた書道は、武蔵村山に越してきてからお隣の奥さんに誘われて教室に通ううちに、どんどん楽しくなつてのめり込んだものです。途中何度か長いお休みをしながら続け、韓国で行われた展示会へ先生と一緒に、代表で出向くという経験もしました。

紙に向かつて、どのように書くのか考え始めると時間も忘れてしまいます。気に入った一枚が書きあがるまで、驚くほど集中してしまうので、あまり家族を心配させないよう気をつけながら続けたいです。

島原と東京の思い出

デイサービス 上田 ツルヨ子様

私は長崎県島原市の三会というところで生まれました。七人兄弟の三番目で、兄と姉が一人ずつ、弟が三人と妹が一人でした。

生家は農業をしていて、家の周りは畑が広がり、海もすぐ近くにありました。

三会は雲仙岳の北東のすそ野、内海である有明海に面した町で、海の向こうは熊本県です。漁業も農業もさかんで、名物は島原そうめんなどがあります。

子供の頃は浜辺で岩について「ミナ」という貝を沢山とつて、茹でて佃煮にして食べたりもしました。近くの温泉神社は年に一度浜に神輿を出すお祭りがあり、にぎやかで楽しい思い出です。

小学校を出てからは町の眼科医院に住み込みの奉公に出て働きました。二十二歳の時に入院患者さんの見舞いに来た方の息子の嫁にと言われ、農家に嫁ぎました。



雲仙普賢岳と島原

子供は男二人女一人授かり、四十八歳の頃、東京に大きなビルを建てる職人が沢山集まった時期で、家族で上京し練馬区に居を構えました。

私は大勢の職人の賄いの仕事に就き、数年後夫を亡くしましたが、平成二年にその仕事を終えた後、次男の住む武蔵村山に引っ越して一緒に住み始めました。

伊奈平苑に通い始めてもう十五、六年になります。最近長女も引っ越してきて次男と一緒に世話をしてくれます。のんびりと料理をしたり自分でできることはして、これからも元気に過ごしたいです。

伊奈平写真館



2月は節分ということで今年も苑に鬼がやってまいりました。皆様で豆まきをして、今年も無事お帰りいただきました。最後には記念撮影も！



ひな祭りにはお雛様を飾りました。また、3月には介助のための研修も行いご利用者様のための知識を深めました。



みなさんでお寿司を食べた時の写真です



生花クラブにてお花を活けました。美しくお花が活けられていますね！



春ということで、苑内の桜も立派に咲き、天気の良い日にお花見を行いました。また、素敵なお花見や桜のイラストをいただきましたので、ここに掲載いたします。



編集後記

今年の春は、侍ジャパンの劇的優勝で、野球界が大変盛り上がりつつあります。桜の木の下で、久し振りに息子とキャッチボールでもしたいなーとぼんやり思う今日この頃です。(編集K)

武蔵村山市西部地域包括
支援センター
電話：〇四二・五六〇・三九三

ちよこふらカフェは、誰でも気軽に「ちよこつと」寄ることが出来る。誰でも垣根なく「ふらつと」な関係である。というテーマの元に取り組まれ、認知症についての理解や交流を深める場として、開催されています。本年も数回にわたって開催される予定です。第一回は6月に開催される予定です。ご参加等につきましては、西部地域包括支援センターにお問い合わせください。お気軽にお問い合わせ、ご参加下さい。

ちよこふらカフェ
の案内

地域包括支援センター
からのお知らせ

